

## 第四章 つなげたい

久留米大学大学院

相田 拓実 氏

### 「きっかけでつなげる」

- ・イギリスとエジプトの方を招いてのキッズワークショップ、事前に両国絵本での学び設定
- ・きっかけがあれば、なかなか繋がることのない人たちが繋がる
- ・キッズワークショップスペースを第二の家のような空間にしたい
- ・まちの中には、どこにでも繋がることのできる場所がある
- ・久留米市アントレプレナーシップ、小中高では学べないことが学べる、そんな場所に

#### メッセージ

- 現状、日常にきっかけが無い学生は繋がることを楽しめていない。年を取るにつれ繋がるきっかけは自分で見つけていかなければいけなくなってくる。仲間を集めながら手助けをしていく。自分がプラットフォームとなる
- 空間があることで想像もしない繋がりが生まれてきた。「出会い」と「繋がり」は誰も消すことができない最高の財産である。学生だけでなく、誰もがつながれるきっかけの場を作り出していきたい

#### ポイント

- ・子供たちに主体性、多様性、協働性が求められている今、学校や地域は、目的に応じて、子供たちのためにその空間を作っていく必要がある
- ・若者が社会を変える
- ・行政とのつながり



長浜市立余呉小中学校

(後期課程) 主任事務主査 松田 幸夫 氏

「願いを、想いをカタチに。つなげることが私の仕事。」

- ・地域連携担当教職員、事務職員が担える
- ・学校運営協議会では、教育計画とともに予算計画を承認する必要がある
- ・マネジメントを構成するヒトモノカネ情報を理解している学校事務職員は、カリキュラム・マネジメントへ主体的に関わること  
できる、関わりを持たせてほしい
- ・今行っている様々な取り組みが、やがて子供たちが主体となって地域協働に向かうようなサイクルの構築ができれば、つまり、時をつなぐこと



#### メッセージ

○地域協働のポイントは、  
「思いを重ねる熟議」「想いをカタチにする協働」「それを支えるマネジメント

(文部科学省から)

- ・10月までは、コミュニティ・スクール担当係は、学校事務、業務改善の担当係と同じ部署だったが、今回の組織再編により地域学習推進課に、学校事務の担当は財務課に
- ・学校事務職員は、学校マネジメントのカギを握っている存在、学校の窓口となり、地域に最も近い位置にいる
- ・地域とともにある学校づくりを進め、本日のテーマでもある「つながり」を作っていくためには、事務職員は非常に重要な存在であると認識、今後も共に進めていきたい
- ・平成29年コミュニティ・スクールの法改正と合わせて、学校教育法も改正され、「事務に従事する」から「事務をつかさどる」に
- ・「子供たちのために」という目標の共有により、先生とも、子供たちとも、地域の方とも真の意味で繋がれる
- ・学校管理職のみなさんには、繋がるためのキーマン学校事務職員の専門性を生かすコミュニティ・スクールの運営を期待している